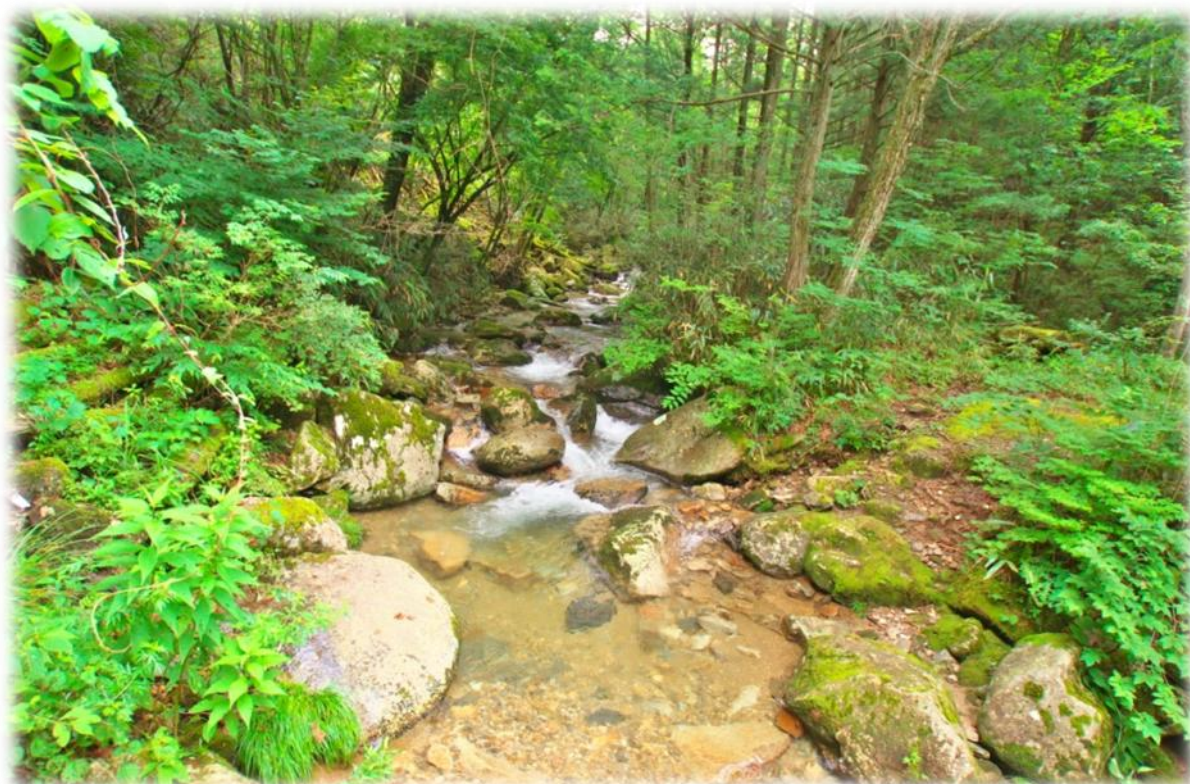


【矢作川水源の森トラストプロジェクト】 設立趣旨書

ミネラルたっぷりのおいしい水がコンコンと湧き出ます



矢作川源流域・根羽村保有林（国定公園）内を流れるせせらぎ

NPO法人地球温暖化対策地域協議会エコネットあんじょう

矢作川水源の森トラストプロジェクト実行委員会

1 矢作川水源の森トラストプロジェクトの意義

森の保全に成功してきた日本人

私たち日本人の祖先は、山の一部を利用しながらも、「森なくして人なし」として、生物界の掟である人と動物との棲み分けを行い、クマをはじめとする大型野生鳥獣のすみ保水力抜群の豊かな森を全国に保全することに成功してきました。その根底には、生きとし生けるものへの畏敬の念がありました。

祖先たちは、集落の周りの里山では、人間が利用しやすいように自然の森の木を切って、植林などにより樹種転換を行い、荒れないように手を入れ続けた一方で、奥山は、クマをはじめとする大型野生鳥獣たちの聖域として、原則、手付かずで残したことで、広葉樹を主とする原生的な巨木の森が全国に保全されました。この原生的な森からは清らかな水がコンコンと湧き出し、日本の国土の全生物の命と全産業を支えてきました。かつては、野生鳥獣の数は自然界の絶妙のバランスによって、安定していたと考えられます。

戦後の「拡大造林政策」によって奥山は大荒廃、深刻な問題が続出

しかし、戦後、国の主導で行われた拡大造林政策によって、水源地・野生鳥獣の生息地として保全されていた奥山の広葉樹林は次々と伐採され、スギ・ヒノキなどの単一針葉樹だけが植え続けられました。この結果、一千万 ha、日本の森林面積の42%の人工林が誕生し、現在、これらの造林地の多くは、国内林業の不振で放置され、荒廃の一途をたどっています。

荒廃した人工林は、外から見ると青々としており、何の問題もないように見えますが林内は昼でも暗く、地元の人たちが「緑の砂漠」と呼ぶように、下草も生えず表土が流れ、生き物のない死の森と化しています。このため、山は保水力を失い、各地で湧き水や井戸水が枯渇、川の水位も大幅に低下して、山崩れ、洪水などの災害を多発させるようになり、地元の人たちの生命や財産まで奪うようになってきています。又、野生鳥獣は餌場とすみかを失い、山から出てきては農作物被害を起こし、有害鳥獣として大量に駆除されており、事態は深刻化する一方であります。

矢作川水源の森トラスト推進協議会の設立

水源地である奥山の広葉樹林は、一度失われれば、再生には気が遠くなるような年月が必要です。百年後、千年後まで見通した森林政策、鳥獣政策の方向転換を今すぐ図らねば、取り返しがつきません。

さらに最近では、気候変動、人口増加、新興国の経済発展等により、世界的に水資源が不足し始めていることは明らかです。隣の中国においてもしかり。その中国の企業が最近水を求めて日本の山林を買い込む動きが各地で見受けられ、不気味です。

そこで「矢作川水源の森トラストプロジェクト推進協議会」を設立し、自ら水源地の森を買い取り奥山水源の森保全のためにトラスト地として未来に引渡す事としたいと思います。

水源の森は都市の森



2 奥山の現状と重要性

日本は国土の67%が森林という森の国です。しかし、戦後急速に造林された人工林は実に全森林の42%にもなり、その7割が手入れもされず放置されたままです。そのため林内は真っ暗となって荒廃し、奥山の生態系は崩壊寸前です。

我々日本人は昔、里山（800m以下）と奥山（800m以上）を棲み分けて、奥山は自然のまま大切に保存してきました。しかし戦後、動物たちの命を育てていた奥山の自然林を伐採し、次々とスギやヒノキの人工林に変えてきました。

人工林は外から見ると、整然と並ぶ青々としたスギの森なのに、一歩林の中に入ると、真っ暗で林床には草一本生えていなくて、生物の気配もなく、動物が到底棲める環境ではなくなっています。

スギなどの人工林の場合スギ以外の野生種が育たず樹木の層状化が見られません。またスギは針葉樹で枝葉にも保水力がなく落ち葉も蓄積されていないのです。つまり雨が降ればダイレクトに雨水は地面へと到達するので、集中豪雨になれば、雨水の勢いはそのまま下流へ濁流となって押し寄せるのです。

それに対して熊のような大型動物の棲む原生林では、ブナやミズナラなどの落葉広葉樹から差し込む日光が林床を照らし、樹高の低いものから高いものまで幾層にも重層状に森林が生い茂っており、雨水は葉から小枝そして幹に伝わり根の回りの幾重にも積み重なった落ち葉の間にため込み地下に浸透させるのです。このように雨水は、各層で一旦蓄えられるので雨水の勢いを緩衝する力が得られ強力な保水力を維持でき、降った雨はその下流において、1年中ミネラル豊富な水が大量にコンコンと湧き出しているのです。

3 根羽村有林取得の意義

長野県根羽村は矢作川の源流域にある自治体です。安城市と根羽村は戦後、官行造林を共同出資して、水源の森として育ててきた歴史があります。「水源の森は都市の森」だからです。両自治体・企業・市民はその後も森林と水を通して流域が手をつなぐ活動を継続的に行ってきました。一方、山村からの人口流出は、山林の荒廃につながり中・下流域の住民にとっても由々しき問題となっています。

そこでこの度、市民の寄付金により、根羽村有林（国定公園）を取得し、水源の森として永久保存することにより根羽村と安城市等中・下流域が交流を深め、豊かな流域社会の実現をめざし、流域社会の発展につなげたいと考えています。



安城市・根羽村の交流の歴史

- ◆明治用水が根羽村に森林を購入(1915)
- ◆官行造林を安城市と根羽村が共同出資・分収育林契約を結ぶ(1991. 12)
- ◆市民・企業による植樹活動
- ◆矢作川を清流に変える活動(全国に誇る矢作川方式)矢作川沿岸水質保全対策協議会設立(1966. 9)
*かつて矢作川は開発・工場排水・生活排水の垂れ流しによって白い川になった事があります
- ◆安城市茶白山野外センターでのキャンプ(1983. 4)

